

【スイッチヒッターの特徴】

注目の商品指数を採用!

当初運用資産の約50%を商品指数で運用し、商品価格の上昇による収益の獲得を目指す。

商品指数の残りは積極運用!

商品指数運用の残額を運用のプロであるCTAに委託。独自のプログラムで好収益を目指す。

ストップロスを採用!

1口当たりの純資産額が7千円を下回った場合、運用を中止することで、損失リスクを低減。

【1月の市況】

<エネルギー市場>

エネルギーは先月までとは一転、反落商状となった。NY市場で原油が100ドルを示現したことから高値圏を維持して始まったものの、目先の達成感や高値警戒感などから手っ早い売りなどが優先され軟調な推移となった。東京市場でも先月12月の上昇幅をほとんど削った格好で月末を迎えた。

<貴金属市場>

安全資産と見られている金は人気を集め、NY市場で過去最高値を更新、900ドル台を示現した。東京市場でも円高傾向にも拘わらず買い人気優先され3100円台を回復し一時3223円と1983年10月以来の高値水準に達した。白金も上値追いの展開が始まり、南アの電力不足に伴い大手鉱山会社が相次いで操業を停止、生産量の減少を受けて供給逼迫懸念が強まったことで約定最高値となる5555円を示現した。

<穀物市場>

とうもろこしはエタノール需要の期待感や、シカゴの5ドル台回復を好感し先月末の値位置水準で月末を迎えた。一般大豆はシカゴ市場の堅調さを受けながらも円高や株安などが上値を圧迫し、先月末の値位置を下回って月末を迎えている。一方、NON-GMO大豆は農務省が備蓄在庫を積み増す意向を示したことで買い人気を集めたが、2月の納会で中国産の受け渡しがあるとの報をきっかけに手っ早い売りが殺到、5連続拡大ストップ安を演じた。

<ソフト市場>

コーヒーは、NY市場の上昇が好感され上値を切り上げた。しかし、米国経済の先行き不透明感が台頭し円高も加速されたことから、先月末より値位置は下回って終えている。粗糖は先月に続き上値追いの展開となった。一時38300円と約1年5ヶ月ぶりとなる高値水準に達し、高値圏で月末を迎えた。

<非鉄金属市場>

アルミは先月のレンジ内での推移で始まったものの、在庫増加傾向などが上値を重くした。米国経済の後退懸念や円高傾向の加速で急落商状に見舞われたが値を戻して月末を迎えた。

<ゴム市場>

ゴムは、先月とは一転、反落商状となった。米国経済の不透明感などから商品市場の全般的な下落と円高が更に加速されたことをきっかけに、下げ幅を拡大し先月末より値位置を切り下げた。



運用開始日: 2005年8月1日

2008年1月31日現在

【今月の運用実績】

当初1口: 10,000円

| | 基準日 | 1口あたり純資産額 | 月間騰落率 | 設定来騰落率 | 年平均騰落率 |
|----|------------|-----------|--------|--------|--------|
| 1月 | 2008/01/31 | 9,422円 | -1.44% | -5.78% | -2.31% |

【TOPIXとの相関】

| | TOPIX |
|----------|-------|
| スイッチヒッター | -0.24 |

【今月の商品指数】

| セクター | 1月騰落率 |
|-------|--------|
| エネルギー | -2.54% |
| 貴金属 | 1.83% |
| 穀物 | -0.94% |
| ソフト | 0.04% |
| 非鉄金属 | 0.00% |
| ゴム | -0.23% |

【カテゴリー別運用実績】

| | 1月騰落率 |
|--------|--------|
| 商品指数部分 | -1.89% |
| 積極運用部分 | 0.32% |

騰落率は、月初における各部分の運用資産額に対する実績であるため、スイッチヒッター全体の運用実績とは異なります。

募集要項 スイッチヒッターは毎月追加募集を行っています。

運用形態 円建て積極運用型 **申込期限** 毎月15日(休業日の場合は前営業日)

募集単位 50万円以上10万円単位 **運用開始日** 申込期限の翌月第1営業日

販売手数料 出資金の2.1%(税込) **運用期間** 無期限

解約 各運用開始から1ヶ月経過以降、毎月未解約を申し込むことができます。解約手数料はありません。
クーリングオフ 個人及び非営利法人にはクーリングオフの制度が適用になります。

運用実績は過去の実績であって、将来の成績を表すものではありません。本ファンドは、先物取引を中心として資金を運用します。分散投資等によりリスクを管理し、より好い収益を追求できるような仕組みとなっておりますが、収益は大きく変動することがあり、元本や収益が保証されているものではありません。また、運用次第では、元本が全く償還されない可能性もあります。実際に投資を行う際には、契約締結前交付書面及び契約締結時交付書面を熟読し、本ファンドの特徴とリスクをよくご理解ください。本ファンドは、他の投資者へ直接譲渡することは原則としてできません。手数料、費用等について 販売手数料:出資金の2.1%(税込)、営業者報酬:純資産額の年率1.5%、TM管理報酬:純資産額の年率1.5%、CTA管理報酬:運用委託額の年率0.5~2.0%、成功報酬:運用収益の最大25.0%、先物取次手数料:1枚につき片道350円~500円、設立費用:500万円程度、維持費用:200万円程度、その他費用:送金手数料及び本ファンドの業務運営に係る費用は、発生の都度実費支払い